

ITOI Yasuhiro

2023 Ceramic Art Exhibition at Midorigaoka Art Museum in Nara, Japan

糸井 康博 展

灰釉の軌跡



自然素材による
表現の探究と
進化への挑戦。

草木の灰が窯の熱により土と反応して釉となる。
その自然素材が織りなす神秘的な現象に魅了された
「灰釉」作家・糸井康博が、灰による焼成表現の可能性と、
奈良の地でしか成し得ない新たな表現に挑む。



2023年5月14日(日)～7月2日(日)

開館日 | 水・木・土・日曜日 11:00～16:00 (入館は15:30まで) 休館日 | 月・火・金曜日
会場 | 緑ヶ丘美術館・本館 → ☎630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘2731-10 ◉入場無料
URL | <http://mam-museum.com> <お問い合わせはFAXで: FAX 0743-85-7880>

糸井 康博 展

やまと
灰の美と、倭の記憶を求めて。

奈良の陶芸家・糸井康博の作陶人生は一本道ではない。

本流は、木や藁など植物の灰を操り糸井流に変化させる「灰釉」。

それと並行し、理想のデザイン性を模索しながら

様々な技法を試みるもう一本の道からは、

奈良の古代ロマンを現代的フォルムで表す「倭(やまと)」が誕生。

その探究心が本流「糸井の灰釉」も変化させ、

白上絵を施したガラスのような「硝彩」へと進化した。

どちらにも通底する自然素材への憧憬が

新たな表現の世界へと突き動かしていく。

作陶初期から最新作まで20年の軌跡が一堂に会する作品展。

糸井康博の挑戦をぜひご高覧ください。

糸井康博(いといやすひろ)

● 略歴《プロフィール》

1972年 京都に生まれる

1996年 大阪芸術大学 建築学科卒業

鎌田幸二氏の指導を受け陶芸の道に入る

1997年 京都府立陶工高等技術専門校卒業

1999年 猪飼祐一氏に師事

2000年 第29回「日本伝統工芸近畿展」初入選(以後連続入選)

2001年 奈良(北葛城郡河合町)に工房を持ち独立

2002年 第31回「日本伝統工芸近畿展」新人奨励賞 受賞

第49回「日本伝統工芸展」初入選(以後10回入選)

第4回「益子陶芸展」入選

2004年 個展【大阪三越・大阪】

2005年 第18回「日本陶芸展」初入選(以後4回入選)

個展【京都高島屋・京都】(以後7回)

茶陶展【常照寺・京都】

2006年 北葛城郡王寺町に工房を移築する

2007年 第45回「朝日陶芸展」入選

個展【東武百貨店池袋店・東京】

個展【八木橋・埼玉】(以後3回)

2008年 第37回「日本伝統工芸近畿展」日本工芸会賞 受賞

個展【京成百貨店・茨城】

2009年 第29回「長三賞現代陶芸展」入選

個展【京阪百貨店・大阪】(以後2回)

2010年 個展【藤崎百貨店・宮城】(以後1回)

2011年 個展【金沢エムザ・石川】(以後5回)

個展【新潟三越・新潟】

2012年 個展【スズラン百貨店高崎店・群馬】

2013年 第1回「陶美展」入選

個展【福屋八丁堀本店・広島】(以後3回)

2014年 日本工芸会正会員に認定される

2015年 個展【大丸神戸店・兵庫】(以後1回)

2016年 個展【大阪高島屋・大阪】(以後1回)

個展【米子高島屋・鳥取】(以後3回)

2017年 個展【大丸福岡天神店・福岡】

個展【名古屋栄三越・愛知】(以後2回)

2018年 個展【玉川高島屋・東京】

個展【岡山高島屋・岡山】(以後2回)

2019年 個展【京都陶磁器会館・京都】(以後1回)

2020年 個展【京王百貨店新宿店・東京】

2021年 第50回「日本伝統工芸近畿展」奈良県知事賞 受賞

まほろば陶 奈良・四人展【緑ヶ丘美術館・奈良生駒】

灰釉の軌跡



黄釉鉢



石彩器 トキノハグルマ



灰釉線文鉢



赤彩器



硝彩器



硝彩器



倭 キオクノカケラ

交通アクセス

- 公共交通機関：〈地下鉄中央線・近鉄けいはんな線〉または〈近鉄生駒線〉〈近鉄奈良線〉で『生駒駅』下車。生駒駅「南口1番のりば」より奈良交通バス『中菜畠二丁目行き』乗車→『新旭ヶ丘バス停』下車、徒歩すぐ。
※ 当美術館には駐車場はございません。

【会場住所】〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 2731-10

緑ヶ丘美術館では新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた上で開催いたしております。今後の感染状況によりましては急遽、臨時休館や予定を変更する場合がありますので、ご来館の際には事前に当館ホームページをご確認いただきますようよろしくお願いいたします。